

1 年 2 組

わたしたちの願いがつまった学級園 ～野菜作りとアサガオハウス～



したいことたくさん！夢が広がる野菜作り

4 月、教室の前の学級園で、野菜作りとアサガオハウスを作りたいと考えた子どもたち。朝顔の種まきや学級園の草取りをしたり、植えるもの決めをしたりと忙しい毎日でした。草取りの際には、汗を流しながら学級園に生い茂っている雑草と立ち向かう姿がありました。また、太い根っこを指さし「ねえ、見て！大根！」と満面の笑みで友だちと見せ合ったり、「きゃー！何かの幼虫がいる！」という声を聴いて何人かで食い入るように地面をのぞき込んだりと、一人でやると大変な作業でも、友だちと同じ時間を共有しながら活動することで、子どもたちにとって楽しい活動になっていることを感じます。“だれか”とともに学ぶことは、やはり大切だなと思わされます。

5 月になると、学級園に植えるものを子どもたちが話し合いました。にんじん、すいか、メロン、とうもろこし、ポップコーン、きのこ、きゅうり、いちご、とまと、かぼちゃなどの野菜類に加え、果樹の名前も子どもたちから挙がっていきました。植えたい理由を話している時の子どもたちの表情がとてもキラキラと輝いていて、きっと頭の中で、夢の学級園が広がっていているのだろうと嬉しくなりました。それと同時に、A さんからは「学級園の広さ的に木は植えられないかも」という意見が出されたり、B さんが「マンゴーやバナナは寒いところでは育たないよ」という話をしてくれたり、これから『育てていく』という現実的な目線で考えている子どもがいることにも驚



きました。それを受けて C さんが「ブルーベリーだったらさ、木は小さいから、広さ的にも大丈夫じゃないかな」と前の人の意見から考えてくれたことを話してくれました。そんな話を聞いていて、私もふと鉢植えでブルーベリーを育てられることを思い出し、思わずつぶやくと、「じゃあ、6 年生まで持っていけるの？」「ベランダで育てられるかも」など、子どもたちからどんどん言葉が溢れてきます。結局、木に関する話の結論は次の話し合いまで持ち越しになったのですが、こういう思わず話したくなる話し合いがクラスでできていることが素敵だなと嬉しくなってしまう一時間でした。

ちなみに、その話し合いの時に、植えることが決定したものが一つあります。それはポップコーンです。話し合いをしていた時に、D さんが「あのさ、ポップコーン植えたい」と発言しました。理由を聞いてみると、「(給食の際に時々見ている)『お話の国』をみんなとポップコーン食べながら見たい」とのこと。その発言の後、どこからともなく「なんか、映画館みたいだね」という声が聞こえてきました。すると、その映画館というキーワードに「それいい！」という声が一斉に湧き上がり、中には立ち上がって嬉しそうにしている子もいる様子でした。「体育館を真っ暗にしてみよう」「お花で飾り付けしたらどう」など次々に子どもたちからアイデアが語られました。その後、ポップコーンを植えるかどうか子どもたちに問いかけてみると、ほぼ満場一致で植えようという意見にまとまりました。『映画館』というキーワードに子どもたちの心が吸い寄せられていく様子を見ていて、本当に「やりたい」と思える活動に子どもたちが出合えた瞬間だったと思いました。これから子どもたちの夢がどのように広がり、この活動から何が生まれていくのかとても楽しみです。

わたしたちのアサガオハウス！

6月中旬から学級園がどんどんとにぎやかになってきました。子どもたちは話し合いを重ね、一つ一つの作物を吟味していきました。結果、学級園にはブルーベリー、キュウリ、トマト、ズッキーニ、さつまいも、すいか、メロン、ポップコーンといった多様な作物が植えられています。話し合いの中で、「キュウリだったら、料理しなくてもその場でみんなで食べられる」「すいかをみんなで、かじりついてスイカパーティーをしたい」など、どの作物にも子どもたちの願いが込められているのが子どもたちの言葉から伝わってきました。この作物と共に子どもたちの願いも一緒にふくらんでいくことと思います。

さて、4月に昨年の1年生の育てていたアサガオのこぼれだねを見つけたことから始まったアサガオハウスづくり。芽吹いたアサガオさんたちをポットに救出した時には、Eさんが「たくさん命を助けられた。きっと、アサガオさんたちも喜んでいるよ」と語るなど、学級園に芽生えた命を大切にしたいという願いがあるように感じました。

7月上旬に、アサガオハウスの骨組みを竹で作りました。骨組みになる竹を植えるために、穴を掘りました。「草の根っこが邪魔で植えられない！」「地面が固くて穴が掘れないよ」。悪戦苦闘しながら、子どもたちは片手ぐわとスコップで穴を掘っていきます。「どのくらい穴を深くすればいいの？」「石は、どこからもってこよう？」骨組みをしっかりと立つように埋めるためには、考えなくてはいけないことがたくさんあります。その中で、自然と「石とってくるね！」「水で土を固めたらどうなるかな？」といったようにやりたいことや分担を考え、協力して作業を進めていくことができました。また、「どうしたらこの土の上にながしりと竹の柱を立てられるか」という試行錯誤の中に、水で土は固まるという図工の「土と仲良くなろう」の経験が生かされていたのがとてもすてきだなと感じました。放課後に、子どもたちと屋根の骨組みをつけてみると、見ていた数人から「いいね」「おおー」と喜びの声がもれました。あさがおハウスの方もこれから、どんどんと進んでいきます。きっとその中で、子どもたちは様々な試行錯誤を繰り返していくと思います。その中に、これまで学んできたことを生かしたり、結果から新たな学びを得ていったりする機会があります。子どもたちと、その試行錯誤自体を楽しみながら、1年2組だけのアサガオハウスを作っていきたいと思います。

